ＮＯ．７　　平成１８年５月２５日

花を咲かせよう

文責　　須田

見ていないと教えられない（朝の挨拶より）

子どもたちの動きで気になる姿が見えたときには,必ず指導をしておられる先生方に感謝しています。その結果，昨年度よりも素敵な子どもが増えてきたと思います。特に挨拶する子どもたちの姿は気持ちのよい姿になってきたと思います。形だけでなく，心に響く挨拶が当たり前になるまではもう一息だと思います。今後もご指導よろしくお願いします。

３年目を迎えますが，挨拶プラカード（視点を示してできたら○，できていなかったら×）を続けてきていろいろな姿を見つけることできます。

＜あいさつプラカード＞

ア，大きな声であいさつ	イ，元気にあいさつ	ウ，目を見てあいさつ	エ，ていねいなあいさつ
オ，おじぎであいさつ	カ，笑顔であいさつ	キ，先にあいさつ	ク，名前を呼んであいさつ
ケ，友達にあいさつ	コ，近所の人にあいさつ	サ，「がんばるよ」のあいさつ	
シ，「元気だよ」のあいさつ	ス，「声かけ」あいさつ	セ，「ありがとう」のあいさつ	など

１週間ほど続けて，次の挨拶を示すという取り組みをしています。

挨拶は人と人とのつながりを作るきっかけだと考えています。「今，この子たちに何が必要なのだろう。」と子どもの実態をみながら提示するプラカードの挨拶を決めています。

子どもたちの姿をみていると，すぐにできるようになる子，なかなかできない子，工夫して挨拶をする子など様々です。

この取り組みは，私と挨拶を交わすときにだけ行っているのですから，私と子どもたちとの関係を築くものだと考えています。私との人間関係を築く中で，以前指導した挨拶を使うことができる子が増えました。中には，私の名前を呼んでくれる子もいます。この子たちは，人間関係が深まったから自分流の挨拶をしているのだと思います。その挨拶は心をこめた自然な挨拶です。私との関係の中だけで考えると，挨拶が身に付いている姿と言えます。私は,「こんな子がもっと増えるといいな。」,「他の人にも広がるといいな。」などと思いながら，毎日プラカードを持って出かけます。

今年度は，ア，～エ，の挨拶の指導をしてきました。特に最近増えたのは，自ら進んで挨拶をする子です。私の顔を見て挨拶する子も多くなりました。また，一年生の挨拶も「おはよう。」から「おはようございます。」に変わってきました。とても嬉しい姿です。また，地域の方々から以前よりも声が大きくなったと言われます。

全校で取り組んでいる挨拶運動の広がりが地域にも広がっていると思うと嬉しくなります。

そこで，教室で出迎える先生方は，次の点から子どもの様子を見ていただけるとありがたいです。

□　教室に入るときの声の大きさはいかがでしょう？（挨拶する子の心の状態をつかめる）
□　教室にいる子どもたちが挨拶を返す声はありますか？（子どもと子どもの人間関係がみえる）
□　先生にも挨拶をしていますか？（先生との人間関係がみえる）
□　先に挨拶しているでしょうか？（人間関係を創り出そうとする子かどうかがみえる）
□　挨拶を交わす子どもたちの人数はいかがでしょう？（学級全体の和がみえる）
□　挨拶を交わせない子どもが誰なのかつかんでいますか？（指導する対象が発見できる）
□　どの子も学級で目指す挨拶ができているか掴んでいますか？（目標意識を探れる）

挨拶を通して子どもたちが，学級経営に関わるいろいろな問題を教えてくれています。挨拶が「できた」「できない」だけをみていて見逃しているということはありませんか？